

2019年3月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第73回

<潮流変化との闘い>

春の訪れとともに、企業の人事異動の発表が新聞紙上で活発になってきています。この異動情報のなかに、以前弊社のコンサルティングプロジェクトでイノベーション創出のリーダーとして活躍され、このたび新社長に抜擢された方もおられましたが、この報に嬉しさがこみ上げて参りました。

一方で経営前途には不確実性が増し続ける今日、会社のかじ取りを担う社長の責任も増し続けております。今迄通りの情熱を持ち続け、焦らずに活性化された組織運営をして頂きたく願うばかりです。

最近、船出して間もない小企業のご支援をさせて頂く機会がございましたが、経営資源であるヒト、モノ、カネのナイナイ尽くしの中、次々に発生してくる経営課題と必死に格闘している社長のお姿に触れ、「経営の原点は人なり」を今さらながら確信いたしました。

経営理念やビジョンと一緒に仕事をする仲間、顧客、仕入先、出資者などを巻き込む求心力になります。グローバル化が進み、働き方改革や、ITがもたらすスピード感で時代の潮流は大きく変化しています。このような時代、原点に立って経営理念やビジョンを皆で再認識する時ではないでしょうか。

<春>

春は成長が始まり新しい機会が訪れることで希望、活気、意気揚々たる気分が盛り上がる。人々はこの繁栄をさらに高めようと懸命に働くことに考えを集中させるので、個体間の競争は比較的低下する。学習と継続的な改善を行う時期であり、設備や不動産の取得、投資の時期でもある。事業は”建設的破壊”の姿勢で利益を上げる。改革はSカーブ上で一段低いレベルで行われる。たとえば産業界の春は製品レベルの革新であり、経済全般を長期的な尺度からみた場合の春は産業の改革ということになる。

製品のレベルで見ると、春は以下のような特徴をもっている。

- 最近出した新製品の販売を立ち上げ、販売力を高める。
- 製品価値に応じた価格設定。
- 次の新製品のための研究開発に着手する。

― 出典：「Sカーブが不確実性を克服する」セオドア・モディス著

寒川龍太郎 訳